

和名倉山周回山行報告書

M4 田中李樹

○日程

2015 年 11 月 21 日（土）～11 月 22 日（日）

○参加者

S 6 1 卒吉筋正雄先生 M4 田中 M0 上村

○行程

1 日目

鮫沢橋 6:30～大洞ダム～8:00 1070M 炭焼跡～9:00 1350M 笹藪下～10:00 尻無ノ頭～10:30 550M 二重山稜～11:00 1700M 笹藪上～13:00 市ノ沢ノ頭～14:00 和名倉山～14:45 1975M 幕営地（テント泊）

2 日目

幕営地 6:10～7:20 東仙波～8:30 桜岩～10:00 白樺広場～11:30 1219 西コル～12:30 1100M 岩峰～13:30 惣小屋谷出合～14:30 松葉沢下降点～16:30 鮫沢橋

○本文

S61 卒吉筋先生のご指導のもと、和名倉山ナシ尾根より仙波尾根を周回する山行を企画した。前年同じ時期に右岸道八百尾根からナシ尾根を下降する山行に出掛けたが、下降の途中で道を間違えて面倒なことになった。今回はそのリベンジの意味も込めてナシ尾根を登ることにした。

11 月 20 日 21 時ころ都内を車で出発、深夜に鮫沢橋に到着。路肩に車を止めテントを張って眠る。平らな地面の上で快適な夜だったが、時折落石の音がして少々怖かった。21 日は 6 時過ぎから活動開始。大洞ダムに下り、そこからジグザグの踏み跡を登る。すぐに右手に落石防止のフェンスが見える。前年は隣の尾根からトラバースして、ここに出てきたのだった。吉筋先生がこの山行の前に一度ナシ尾根を視察して下さっていたこともあり、今回は迷わず正解の尾根に乗る。ここから暫くは踏み跡があるが、暫くすると尾根が広くなりどこでも登れそうな感じ。登りは良いが下りではルートを見つけるのが大変そう。やがて 1070M 炭焼窯跡を発見。かなりしっかりした窯だった。いつごろ使われていたものなのだろう。ちょっとだけ浪漫を感じつつ、先へ。

1350M 付近から笹藪に入るが殆どが枯れていて、それほど苦労はない。目印もあったので、それに従った。どうやら相当神経質な人が付けた目印のようで、蛇行しながら非常に丁寧に鹿道を辿っていた。ところどころ笹を縛って道を開いているところもあり、ルート整備にかかる執念を感じた。いったい何人がこのルートの恩恵を受けるか知らないが物好きもいるものだ。人のこと言えないけれど。お蔭様で二重山稜まではあっさり到着。その上の 1700M 笹藪は傾斜がゆるくてルートが分かりにくいこともあり、前回苦労した記憶がある。気合を入れて登り始めたが、拍子抜けするほど簡単に笹藪を越え、尾根に乗ってし

まった。下りと登りの違いはあるが、やはり笹藪がたった一年で薄くなったようだ。笹は数十年に一度花を咲かせて一斉に枯れてしまうと聞いたことがあるが、もしかすると丁度そのタイミングに当たったのかもしれない。とにかく殆どの笹が枯れていた。ラッキー

その先は尾根が明瞭なので出来るだけそこから離れないように頂上を目指す。相変わらず馬酔木が邪魔だけれど、ここまでかなり良いペースで登ってきたので気持ちが軽い。結局 14 時ころ和名倉山山頂に着いてしまった。誰もいないかと思いきや単独登山者二名とすれ違った。幕営地に向かう途中、天気が良いので千代蔵ノ休場に立ち寄った。全く期待していなかったが、正面に富士山を望む素晴らしい景色。ここで撮った写真は暫くの間私の携帯の待ち受け画面になった。時間にも余裕があるし、気分は最高。1975M 幕営地に下りてのんびりテントを立てた。ここは適度に木が生えていて風を凌げるし、水場まで徒歩 5 分程度と非常に条件の良い幕営地。早めに就寝して翌日に備えた。

翌朝 6 時ころから行動開始。八百平を経て東仙波に向かう。この間は一般登山道なのだが、なかなか味のある素敵な稜線だった。将監峠からと思われる数名の登山者とすれ違う。東仙波から仙波尾根を下るのだが、一つ南の尾根に間違えて乗ってしまった。ガスっていたこともあり、なだらかに見えるこの尾根が正解だとまったく疑わずに突き進んでいたのだが、途中で吉筋先生に後ろから呼び止められ、軌道修正した。この尾根はどこで間違えても谷筋に吸い込まれてしまう。危ないところだった。

気を取り直して仙波尾根へ。笹藪を踏んでいくのだが、ルートがかなり見つけにくい。ガスで先が見えないので、しばしば立ち止まって方位と地形を確認する。カバヤノ頭付近で小雨が降ってきたので雨具を着用。前日に楽をした分この日はちょっと辛そう。特に桜岩から 1680M 小広場までの間は背丈より高い笹藪の間で鹿道を繋ぐが、いまいちどこが正解かわからず、途中むりやり藪を切り開いてしまった。小広場からは踏み跡を見つけ、急に楽になったが、白樺広場に着くころには疲れてしまって、ゆっくり休憩。ガスがなくて登りなら簡単な尾根だろうけど、コンディションによってこんなに違うものかと思う。

白樺広場からは丁寧に赤テープが張ってある。目を凝らしてテープを探し、それに沿って下れば難しくない。尾根に乗ったと思ったら脇にそれたり、窪地上の地形を回り込んだり、不思議なルートだった。そのうち 1100M 岩峰に至る。ルートが荒れているところがあって、少し怖かった。途中から北側斜面を下るのだが、下り始めがよく分からず、吉筋先生に頼ってしまった。踏み跡も目印もないところをむりやり下っていくと、なんとか目印を発見。ルートらしきものに復帰した。井戸沢・惣小屋谷出合に出る。そこで渡渉用の運動靴に履き替え、杖に使う枝を確保。まずは井戸沢を徒渉し、大洞本流を暫く右岸から巻いた後、左岸へと渡渉。水位は膝下で何のことないのだが、あまりの水の冷たさに私のお豆腐メンタルは崩壊の危機を迎えていた。

お茶を飲んで復活した後、松葉沢より林道に上る。この林道は落石だらけで、車が通れるように維持するのはとても無理そうに見えた。退屈な林道を早足で進み、16 時半頃鮫沢橋に到着。思っていたより苦労したが、今回は明るいうちに車にたどり着いた。

吉筋先生と山行にご一緒させていただくのは 4 回目だったが、今回も我々学生だけでは絶対に到達できないマニアックな世界を垣間見せて頂き、非常に貴重な経験だった。天気も上々でとても楽しい山行であった。和名倉山に 2 年続けて登って、この山を安全に上るために大切だと思うことが 3 つある。①自信のない尾根は登りで。②暗くなったらもう一泊できる装備を担ぐ。③吉筋先生と一緒に登る。



炭焼窯跡



笹は薄くなっていた。



二重稜線



前回はこのへんで苦勞したと思うのだけど。



二重稜線のひらく君★



良い天気。



地味な山頂



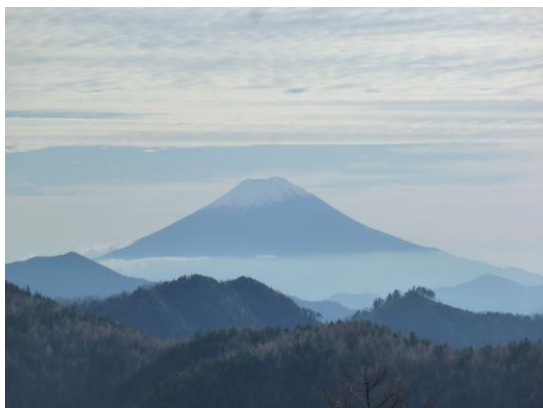
飛行機雲



良い景色



快適なテント場



富士山



八百平あたりかな。



このへんは一般登山道。



笹薮のひらく君★



東仙波



誰が名付けたか鹿の十字路



笹薮をむりやり突き進む。



印を見つけてからは歩きやすかった。



鹿としか出逢わない出逢いの広場



むりやり下降



目印を辿る。



水が冷たかった。



1100M 岩峰